

共同礼拝

2024年4月14日(日) 午前10時30分

午後4時

司式 牧師 姜 徑米

奏楽 市橋佳子

前 奏

招 詞 詩 編 68編20～27節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書

申命記 16章18～20節 (旧307)

マタイによる福音書21章23～27節(新41)

祈 禱

使徒信条

讃 美 歌 1

説 教 「主の問う権威」 牧師 高橋和人

祈 禱

讃 美 歌 II 59

献 金

頌 栄 544

祝 禱

後 奏

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。
礼拝は前の方から静かに着席しましょう。

4月の祈り

主イエスの復活の光に導かれ、この世の栄えではなく信仰によって見出される恵みの光を仰ぐ歩みを進めることができるように。

礼拝と祈祷会を重んじる教会生活を大切にし、身に付いたものとなるように。

新年度の歩みが御心に導かれるように。

高齢や体調などにより礼拝に集うことがかなわないでいる兄弟姉妹たちを覚えて。

震災の地の教会と人々を覚えて。戦争と紛争の地に平和がもたらされるように。

今日の祈り

主の日毎の礼拝が、復活の主の導きにより、整えられ、御言葉に集中するものとされるように。

役員(長老)会の働きが支えられ、主の御支配を表すことができるように。

弱っている教会員が霊においても、体においても力を与えられるように。

教会の様々な働きを奉仕者一人一人の働きが主の恵みによって力づけられるように。

「主の問う権威」 高橋和人

マタイによる福音書21章23～27節

主イエスは神殿の境内で教えておられた。世界は主なる神の御支配のもとにあり、特に神殿は神の名が置かれたところ。そこででの行動は権威が問われる。神殿を治めていた祭司長たちと民の長老たちが「何の権威か、だれが与えたのか」を問う。

これまでも主イエスは律法学者たち(12:38)サドカイ派(16:1)はしるしによって権威を示すように求め、悪霊の頭(12:24)だと非難した。

一方で主イエスを受け入れた者たちは主の権威を

知っていた。教え(7:29)、百人隊長の僕のいやし(8:8-9)、罪の赦し(9:6)、弟子たちへの権能の授与(10:1)によって。受け入れたものはあえて問うことは必要なかった。驚きと決断と追従があった。

主は「ヨハネの洗礼は、天からのものか、人からのものか」と問い返される。主イエスの働きはヨハネの洗礼を受けることから始まった。ヨハネの働きが罪の悔い改めをもたらし、主はそこに福音を語られた。悔い改めと救いは切り離すことはできない。

彼らの問いは畏であったが。今は問うたものの方が問われる。「天からのものか、人からのものか」。彼らは論じ合い、しかし答えることができない。人を恐れた。神殿に仕えていながら。

信仰には権威が伴う。何を恐れ、だれに従うかははっきりさせねばならない。主を畏れることは知識のはじめ(箴言1:7)であり、「尊く畏るべき御名、あなたの神、主を畏れないならば」(申28:58)と神を畏れることが教えられる。イエスを主とすることはその権威に服することになる。

自分の罪を知り神を畏れるものは、悔い改めを受け入れる。自分と人とこの世の仕方によって生きるのではなく、神を恐れ従って生きるようになる。主イエスはこの畏れを越えて罪人を迎える。畏れの向こうから愛と慈しみによって手を伸べてくださる。

祭司長たちは答えることができない。人を恐れ口を閉ざす。ヨハネを認め、神を畏れることができない。主イエスの恵みを見ることができない。

主はお答えにならなかった。それゆえ、今もこの問いは生きる。神からか、人からか。教会は常にこれを意識する。見分け、答え従わねばならない。礼拝は神を恐れ、その権威を求めることにある。そこにこそ主が働かれ贖いの恵みを与えられる。